

ウィズ 64 回生学年だより「WITH」

～ 共に学び、共に支えあい、共に感動する学年 ～

生徒作文「音楽コンクールを振り返って」

今年の音楽コンクールは、私たちの担任の先生が 64 回生の歌声を聴くことができる最後の機会になるので、少しでも先生に良かったと思ってもらえるように歌詞を覚えめました。

私は歌を歌うのがとても好きです。綺麗な声や綺麗な音を聞かたびに、気持ちがよくなります。でも、声変りをして、高い音が出せなくなったことで、自信をもって歌うことができなくなりました。そして、今回も練習の初めの方は大きな声でなかなか歌えませんでした。しかし、練習を重ねるたびに、1 組の中で「担任の先生のために歌う」という気持ちが少しずつ大きくなって、何年たっても烏帽子の 64 回生の歌声が思い出せるような歌にしようと自分も思いました。それから、うまくいかなくても大きな声を出そうと頑張っ、て、クラスのみんなと練習していきました。音楽コンクール本番が終わった後に担任の先生が涙を流しているのを見て、私たちの想いが伝わってよかったと思いました。このメンバーで合唱ができて本当に良かったです。(1c)



ずっと不安で、最後まで焦っていたけどとてもよい音楽コンクールだったかなと思いました。「時を越えて」の歌詞は、1 番と 2 番で少しずつ違う歌詞だったので、覚えるのが大変でした。歌詞を覚えられても音程や声の大きさを意識しすぎて歌詞が飛んでしまったり、その逆パターンもあったりしました。その後、練習を重ねていくことで大体できるようになったのですが、やはり音楽コンクールはクラスで頑張るもの。自分だけでどうにかしても無理なのです。練習中、自分が声を出そうとしても、全体とのバランスがなかなかうまくいきませんでした。最終的には、その中でも初心に帰り、大きな声で歌おうと勇気を出しました。本番はマスクを外して歌い



ましたが、練習のときより遥かに大きな声でみんなが歌えていて、とても良かったです。結果は優勝とはなりませんでした。が、個々が全力を出して歌えたということは、2 年 2 組がより一層団結できたと思えたので、とても良い音楽コンクールでした。(2c)

今回の音楽コンクールでは初めての伴奏に挑戦しました。去年は歌う側でしたが、せっかくと思って希望しました。今までずっとピアノは習っていたけれど、人の歌声に合わせて伴奏することは初めてで、テンポやリズムに苦戦しました。夏休みから毎日家で練習して、音源に合わせてながら頑張りました。初めての体育館練習では、ピアノの音が響いたのでびっくりしました。予行では練習通りにいかなかったのが焦りを感じました。でも本番の 3 時間目の最後の練習で、今までにないくらいの声量でみんな頑張ってくれてとても感動しました。本番でも今まで以上の出来で最高でした。初めての伴奏を経験して、感動をもらいました。クラスメイトには今とても感謝しています。(3c)



この音楽コンクールを終えて、私はすごく安心していました。3 時間目のプレイルームでの最後の練習では、何回か間違えてしまいました。3 時間目の時からずっと緊張していましたが、いろいろな人に応援されて、すごく勇気をもらいました。そして音楽コンクールが始まって、前のクラスの曲を聴いていて、すごくうまいなと思って、さらに緊張したけれど、ノーミスでピアノを弾けました。優勝はできなかったけれど、友達からは音楽コンクールが終わった後、「ピアノよかったよ」とか「すごくうまかったよ」など言ってもらえて、すごくうれしかったです。練習では、あまりうまくできなかったけれど、本番では、今までで一番うまくできたかなと思いました。家でたくさん練習をしてよかったなと改めて思いました。次は学級旗コンクール、体育会、文化祭があります。この 3 つの行事もあきらめずに努力して、たくさん練習していい思い出になればいいなと思いました。(4c)



生徒作文「体育会を振り返って」

僕は、今回の体育会で、「優勝」の意味をなんとなくですが、知れたような気がします。僕は今まで優しく勝つことが「優勝」の意味だと思っていました。しかし、そうではなく、「優しい人が勝つ」ということでした。勝つことだけを見るのではなく、負けた人にも、優しく接することができる人が「優勝」に値するのだと思いました。今回僕がそう感じたエピソードを述べます。

「ウォー！！」スウェーデンリレーが終わり、会場は大盛り上がり。その次の力比べに僕は出場した。ベスト3までが、名前を挙げられる。だから僕は、そこに入ることしか考えていなかった。女子の部が終わり、男子の部になった。僕は後半だったので、前半の子を応援していた。そして、前半の子は1位になった。そのことで僕もさらに熱が入り、18キロの重りを持ち上げた。ところが、普通はライバルを見ながら戦うのだが、僕は持ち上げた時の反動で、逆の方向を向いてしまった。だからほかの選手の姿は見えなかった。そして、僕の中で1秒1秒の時間はものすごく長く感じた。そして、僕は11人中10位というあっけない順位で終わったのだ。とても悔しかった。僕は前半の子に「せっかく優勝してくれたのに、自分自身は情けない結果に終わってしまった」と言った。そして前半の子は、「でも、2人合わせたら半分よりは上だから大丈夫だよ！」と言ってくれた。そのとき、僕はこういう人が「優勝」するのだと感じた。多分、立場が逆だったら、そんな優しい言葉はかけていないだろう。それで観覧席に戻ったら、優勝した子より先に、「お前もよく頑張った」、「お疲れ様」という言葉をクラスみんながかけてくれた。僕はその時こう思った。「体育会って、素晴らしい」と。どんな順位でも、みんなが励ましてくれるなら、体育会は好きだと思った。(1c)



「勝てないかも」と思った体育会、前日の学年演技、リハーサルの際は断トツの1位だったけど前日の練習では3位でした。しかし、本番になるとまさか午前終了の時点で学年1位の点数だった。その勢いのまま学年演技に臨み、一回戦も二回戦も1位をとれたのはうれしかったです。個人競技の長縄では練習の時、縄を回す人がいない、跳ぶ人も数人という状態で果たして本当に勝てるのかなと思っていただけ、リハーサルでも1位、本番でも1位という結果はすごく驚きました。しかも本番では130回以上跳べたのはすごいと思いました。去年も長縄に出ていて、ここまで跳べなかったのが意外といけるなと内心驚いていました。最終的に1位をとれたのはすごくうれしかったです。

部対抗リレーは、まさかの女子は2位、男子は3位で同じ吹奏楽部の仲間の底力を見ることができました。今回の体育会では、たくさんの人の意外な一面がたくさんあり、とても楽しかったです。学級旗コンクールが1位ではなかったのは残念でしたが、2組が体育会で優勝できてとてもうれしかったです。このクラスでこれからもたくさんの行事などを頑張っていけたらいいなと思います。(2c)

体育会を終えて感じたことは、「団結力」です。特に3年生の団結力は他学年の私たちからでも、強く感じられました。応援の盛り上がりや、学年演技の前の円陣など仲の良さが伝わってきました。そんな3年生は、やっぱり1番上の学年だということを改めて実感しました。2年3組は学年演技の予行の時は1位だったけど本番の体育会では残念ながら最下位でした。追い上げたい、優勝したい、頑張りたいという強い気持ちがある他のクラスより欠けていたと思います。しかし、そういう経験を通して気づき、お互いを高めあえる、尊重されるクラスに成長していきたいです。今回の体育会で優勝はできなかったけれど、体育係としてちゃんと行動できたと思います。そして、みんなが見えないところで動いている人達の存在に気づくことができました。来年は今年の3年生より上の「団結力」を目指して、表彰台の上に上がりたいと思います。(3c)



「パン！」という音がグラウンド中に響き渡りました。私はやっと体育会が始まるなあと思いました。今年の体育会は、学年演技はずっと最下位でしたが、いざ本番になると皆が協力して作戦をたてたり、グループで話し合ったり、ボールの置き方を決めたりなど、昨年とは違うコミュニケーションがとれたと思います。皆が協力したおかげで、優勝はできなかったけれど、2位になることができました。学年演技も最後まであきらめず、戦い抜いたおかげで、演技をする前は最下位だと思っていたけれど、その予想を覆して2位にまで順位を上げることができました。

私が今回の体育会で思ったことが2点あります。

1 つ目は、今回のように、クラス全員が最後まであきらめなければ、優勝も不可能ではないということです。

2 つ目は、協力すればするほど、何かを行ったときの達成感は大いということです。ただ勝っても協力をあまりしていなければ、達成感は小さいけれど、負けても協力していれば、達成感は大いだと思います。私のクラスは今回負けてしまったけれど、協力できたので良かったと思います。来年は、皆で協力して勝ちたいです。(4c)